

# 終わりと始まりと

## 「ツリー・オブ・ライフ」を見る



池澤夏樹

### 「ツリー・オブ・ライフ」を見る

芸術には形式が要る。  
普通の創作者は広く用いられて  
いる形式を頼って自分の作品を作  
る。

しかし中にはその形式の枠を踏  
み越えて新しいことを試みる、真  
の意味の創作者もいる。

テレンス・マリック監督の「ツ  
リー・オブ・ライフ」は形式の枠  
を壊す勇敢な新しい映画である。  
ストーリーは何の仕掛けもない

単純なもの。一九五〇年代のテキ  
サスの小さな町に若い夫婦がい  
る。暮らして安定しており、二人  
の間には次々に三人の男の子が生  
まれる。長男が思春期を迎える頃  
まで、三人が育ってゆく姿が丁寧  
に描かれる。

始まってすぐのところから、二番  
目の子が十九歳で（おそらくはベ  
トナム戦争で）亡くなったことが  
伝えられ、両親が悲嘆に暮れると  
いう場面がある。

しかし、この家族にそれ以外に  
ドラマティックなものはない。彼  
らは特別な家族としてではなく、  
いわば普通の家族の代表としてそ  
こにいる。

家庭内に緊張があるとすれば、

子供たちへの愛にあふれているの  
に厳格に育てなければならぬとい  
信じている父親（ブラッド・ピッ  
ト）の矛盾をはらんだふるまい  
と、それに耐えて育つてゆく長男  
の心理だろうか。子供たちと夫の  
間の微妙な位置に立ってよく遊ぶ  
母親の野放図な愛が心地よい。

昨今のハデハデな娯楽作品に比  
べればまこと波乱の少ない展開だ  
が、それを補うべく場面の一つ一  
つは緻密に撮られている。とりわ  
け長男ジャックと次男R・Lの演  
技はすばらしい。幼い俳優からこ  
の表情を引き出した監督の演出力  
は尋常でない。

その上で、この映画は二つの方  
向へ逸脱する。家に例えれば、一  
見したところ平屋のように見えて  
実は広い地下室と明るい屋根裏が  
隠れている。

先に彼らは普通の家族の代表だ  
と書いたが、それは人間の代表、  
ヒトの代表という意味でもある。  
スクリーンは世界の創世からこの  
子供たちの誕生に至るまで、宇宙  
誌をさまざまな自然科学の画像で

見せる。天文学と地史と生物学か  
ら提供された美しい画像の数々を  
経て生まれた赤ん坊の足に行  
き着くところは感動を誘う。これ  
は存在の大きい肯定である。  
もう一つの逸脱は霊の世界へ、  
あるいは生きてあることの意味づ  
けの方へと向かうものだ。

この家族の物語を中年になった  
長男（シヨーン・ペン）が振り返  
る。彼の心の中に残った幼い時の  
自分の視点が実はこの映画の主要  
部分を成している。その中で少年  
である彼はしばしば神に話しかけ  
る。何かを願うのではないから祈  
りではない。あなたは誰なのか、何  
なのかと執拗に問いかける。彼の  
母もまた同じことを問うていた。

彼は長じて建築家として成功  
し、高層ビルの中を忙しげに行き  
来している。しかしその表情はう  
つろだ。

## 宇宙誌と霊の世界

朝日新聞 11(H23) . 9. 7

映画の最後で彼は夢想の中の荒  
野に立つ境界の門をくぐり、霊の  
世界の渚で自分の記憶の中の人々  
に出会う。自分が幼い時のままの  
父や母がおり、弟がおり、その他  
たくさんの人たちがある方向へ向  
けて歩いているのに合流する。和  
解と調和の光が満ちる。

この映像の力に、言葉はとても  
かなわないと思った。  
「ツリー・オブ・ライフ」にキ  
リスト教の色は濃い。そもそも  
「生命の木」とは旧約聖書でエデ  
ンの園に「善悪の知識の木」と並

んで生えていた木だ。  
だが、人間はこの世界で他の被  
造物の上に立つ別格の存在であ  
り、神の愛でる子である、という  
楽天的な世界観は採用されていな  
い。

映画の最初に「ヨブ記」からの  
言葉が掲げられている（わかりや  
すく加筆して引用する）――  
わたしが大地を据えたとき、お  
まえはどこにいたのか？  
夜明けの星はこぞって喜び歌  
い、神の子らはみな喜びの声をあ  
げた、その（天地創造の）ときに？

信仰篤いヨブを神は災厄を送っ  
て試す。それでもヨブは揺るがな  
い。最後になって出てきた疑念を  
神は打ち砕き、ヨブは最終的に神  
に帰順する。

大事なのは世界は人間のために  
作られたのではないということ  
だ。人間が登場しなくても世界は  
完結していた。それでも我々は  
「神は与え、神は奪う。その御名  
はほめたたえられよ」と言わなく  
てはならない。

家族がずっと考えているのはこ  
のことだ。今、東日本大震災の後  
でぼくが考えているのもこのこと  
だ。キリスト教の信仰とは別に、  
なぜ震災でたくさんの方が亡くな  
ったのか、なぜ大地は揺れるの  
か、その先のどこに生きる意味が  
あるのか？  
この映画にも何か手がかりがあ  
るような気がするのだが。（作家）